

# アジア初のブルーフラッグ取得への挑戦

片山清宏  
NPO法人湘南ビジョン研究所理事長

初夏の湘南海岸。青い空、青い海。大きなウネリが沖から迫り、波が盛り上がってくる。狙いを定めてパドリング。サーフボードがグツと波に押されてスピードに乗って滑り出す。地球のエネルギーを感じる最高の瞬間だ。

小さい頃から海が大好きで、学生時代からサーフィンに打ち込んだ。サーフィンの魅力は、自然と一体になれること。私は、この美しい湘南の海とともに生きてきた。

私にとって、ビーチクリーンは日常の一つだった。しかし、あるとき統計を見て、湘南の海岸ごみの総量が全く減っていないことを知る。愕然とした。調べると、海岸ごみの7割は川から流れて来て、その川ごみは街から流れて来ることが分かった。だから、海岸をいくら掃除しても根本的な解決にはならない。「発生源の川や街を含めた地域全体で、行政や企業と協力して取り組まないと解決できない」。20年ビーチクリーンをしてやっと気付いた。

その後、海岸ごみ問題の研究に没頭し、海外の「ブルーフラッグ」認証制度を紹介したある論文に出会う。「これで海岸ごみ問題を解決できる!」。私のライフワークが決まった瞬間だ

った。

ブルーフラッグ(以後、BFとする)とは、国際NGO FEEが実施するビーチ等を対象とした世界で最も歴史ある国際環境認証制度。①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準を達成すると取得することができる。1985年にフランスで誕生し、2022年7月現在、世界48ヶ国、5042ヶ所が取得。BFを取得した海岸は「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れる。

BFアジア初取得の挑戦という「使命」に燃えた私は、2011年、仲間とともにNPO法人湘南ビジョン研究所を立ち上げ、活動を開始。当初、周りは冷ややかだったが、少しずつ協力者の輪が広がり、2016年4月、ついに由比ガ浜がアジア初・日本初のBFに認証された。5年越しの活動の成果が実り、これまでの苦労が報われた瞬間だった。

NPOを立ち上げて今年で11年目。BFは全国で7ヶ所に増えた。そして、2022年4月、BF取得支援を専門とする団体、一般社

団法人日本ブルーフラッグ協会を設立し、代表理事に就任した。目標は、2030年までに国内に100ヶ所のBFを誕生させることだ。これからも、「海を守り、未来をつくる」のスローガンを胸に、全国のたくさんの仲間とつながって、海の未来について語り合い、一緒に行動し、この素晴らしい日本の海を守り、次世代に残していきたい。

かたやま・きよひろ

1975年藤沢市出身。厚木市役所、神奈川県庁、松下政経塾を経て、2011年 湘南ビジョン研究所を設立。海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」の取得を推進。市民大学「湘南VISION大学」設立(学長)。慶應義塾大学SFC研究所上席所員。一般社団法人日本ブルーフラッグ協会代表理事。

